

大滝振興会館 現況写真

(調査日：平成25年1月11日)



建物全景 (1)



外部手すり：木部腐食が進行し危険な状況



建物全景 (2)



屋根：苔が繁殖し、劣化が進行



外部デッキ：凍害により、床タイルが剥離



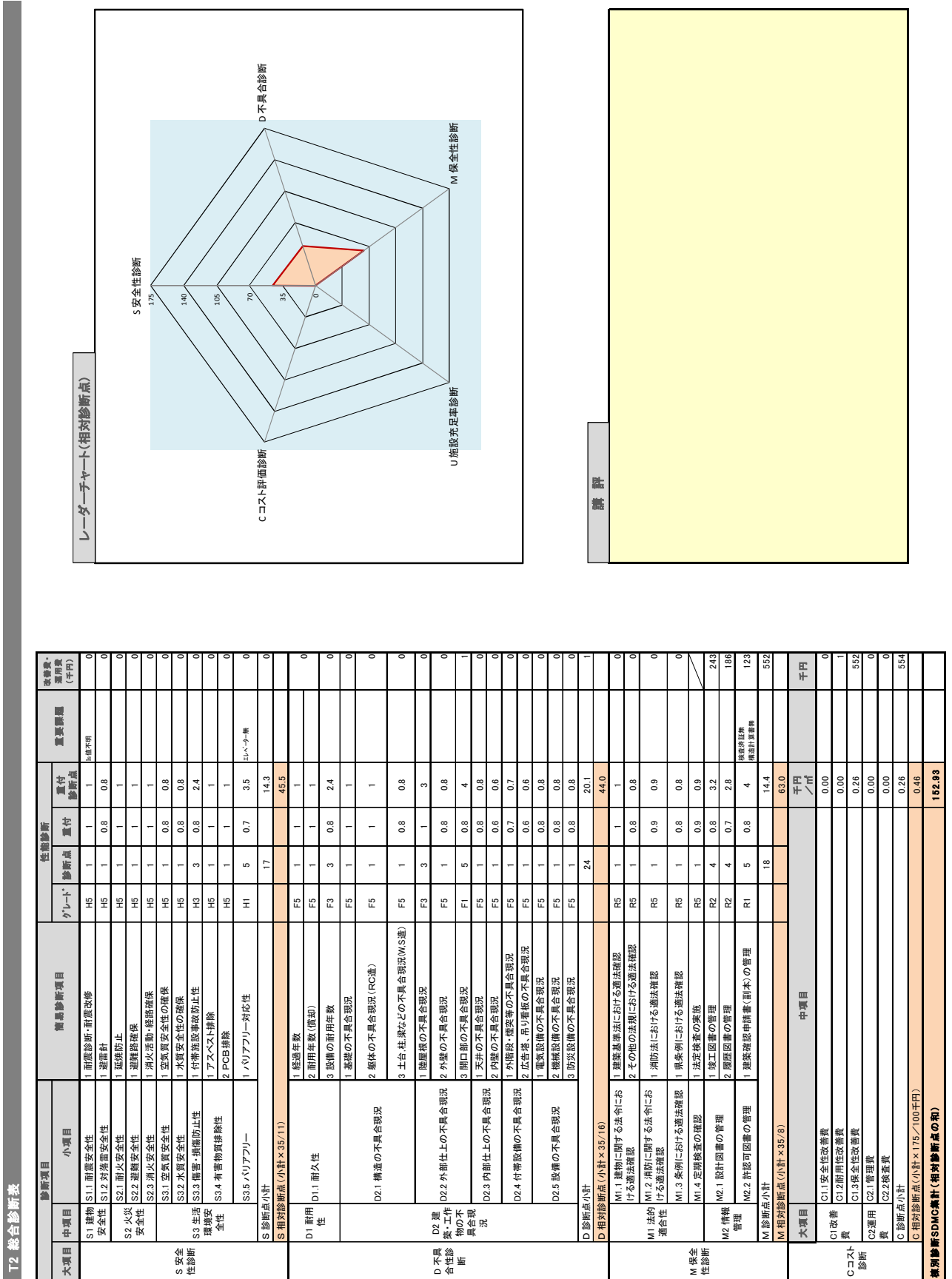
外部階段：腐食が進行

大滝振興会館 棟別診断の結果

診断項目			簡易診断項目	危険度H					劣化度F					対応度R					コスト診断記号B						
大項目	中項目	小項目		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5		
S 安全性診断	S 1 建物 安全性	S1.1 耐震安全性	1 耐震診断・耐震改修					◎																	
		S1.2 対落雷安全性	1 避雷針					◎																	
	S 2 火災 安全性	S2.1 耐火安全性	1 延焼防止					◎																	
		S2.2 避難安全性	1 避難路確保					◎																	
		S2.3 消火安全性	1 消火活動・経路確保					◎																	
	S 3 生活環境 安全性	S3.1 空気質安全性	1 空気質安全性の確保					◎																	
		S3.2 水質安全性	1 水質安全性の確保					◎																	
		S3.3 傷害・損傷 防止性	1 付帯施設事故防止性			●																			
		S3.4 有害物質排 除性	1 アスベスト排除					◎																	
			2 PCB排除					◎																	
S3.5 バリアフリー	1 バリアフリー対応性	★																							
D 不具合性診断	D 1 耐用性	D1.1 耐久性	1 経過年数										◎												
			2 耐用年数 (償却)												◎										
			3 設備の耐用年数										●												
	D 2 建築・ 工作物の 不具合 現況	D2.1 構造の不具 合現況	1 基礎の不具合現況											◎											
			2 躯体の不具合現況 (RC造)												◎										
			3 土台、柱、梁などの不 具合現況(W,S造)												◎										
		D2.2 外部仕上の 不具合現況	1 陸屋根の不具合現況												●										
			2 外壁の不具合現況												◎										
			3 開口部の不具合現況								★														□
		D2.3 内部仕上の 不具合 現況	1 天井の不具合現況												◎										
			2 内壁の不具合現況												◎										
		D2.4 付帯設備の 不具合現況	1 外階段・煙突等の不 具合現況												◎										
			2 広告塔、吊り看板の 不具合現況												◎										
		D2.5 設備の不具 合現況	1 電気設備の不具合現 況												◎										
			2 機械設備の不具合現 況												◎										
3 防災設備の不具合現 況													◎												
M 保全性診断	M 1 法的 適合性	M1.1 建物に関する 法令にお ける適法 確認	1 建築基準法における 適法確認																				◎		
			2 その他の法規におけ る適法確認																					◎	
		M1.2 消防に関する法令 における適法確認	1 消防法における適法 確認																					◎	
		M1.3 条例におけ る適法確認	1 県条例における適法 確認																					◎	
	M1.4 定期検査の 確認	1 法定検査の実施																					◎		
	M 2 情報管理	M2.1 設計図書の 管理	1 竣工図書の管理																					▲	
			2 履歴図書の管理																					▲	
		M2.2 許認可図書の 管理	1 建築確認申請書 (副 本) の管理																					★	
棟別診断集計			1	0	1	0	9	1	0	2	0	13	1	2	0	0	5	0	0	0	0	4			

(注) 公共施設に使用において、★重度の問題箇所、▲中度の問題箇所、●要注意箇所、○問題なし、◎良好
コスト診断における□は改善費用の大きさを表す。(改善費用 大 1⇔5 小)

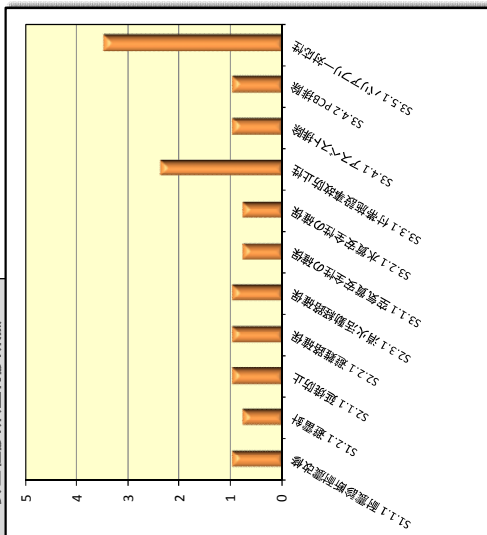
大滝振興会館 総合診断表 (出カイメージ)



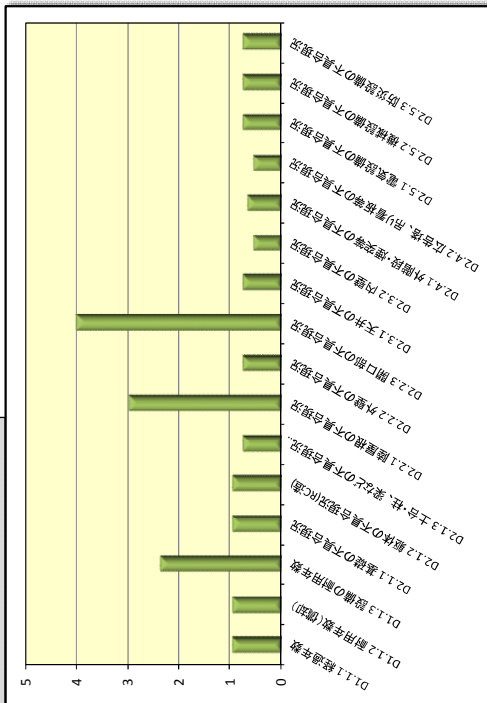
大滝振興会館 各診断グラフシート (出カイメージ)

T3 各診断グラフシート

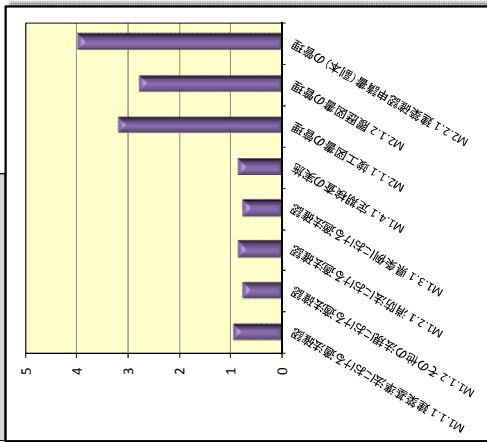
S 安全性診断(重付診断点)



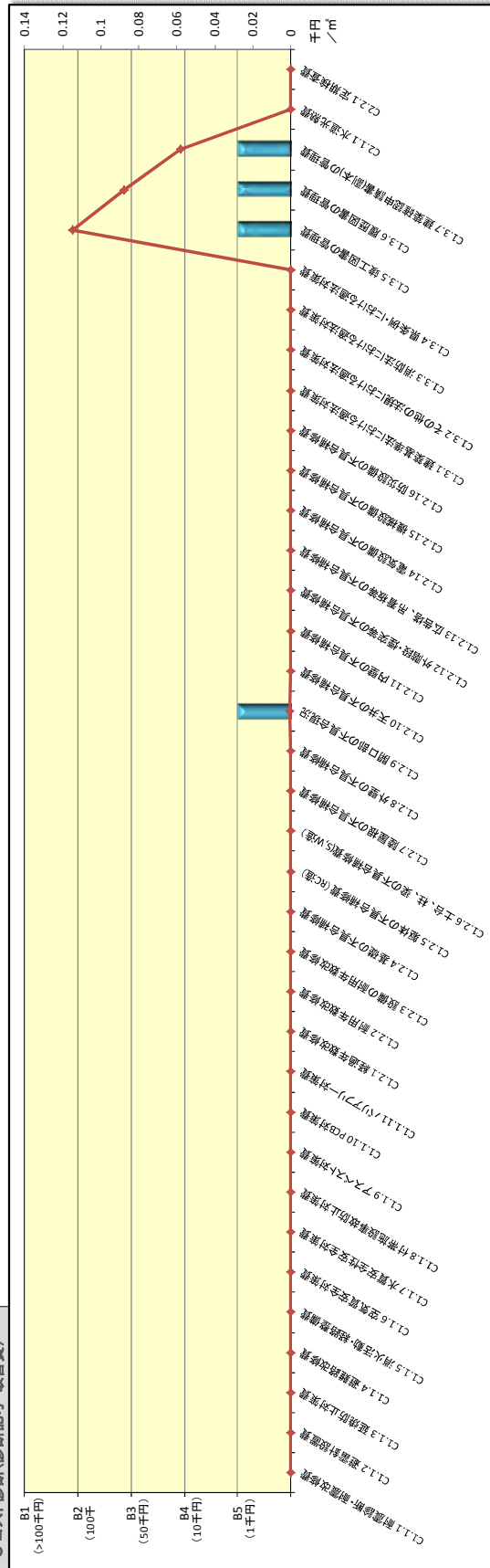
D 不具合性診断(重付診断点)



M 保全性診断(重付診断点)



C コスト診断(診断記号-改善費)



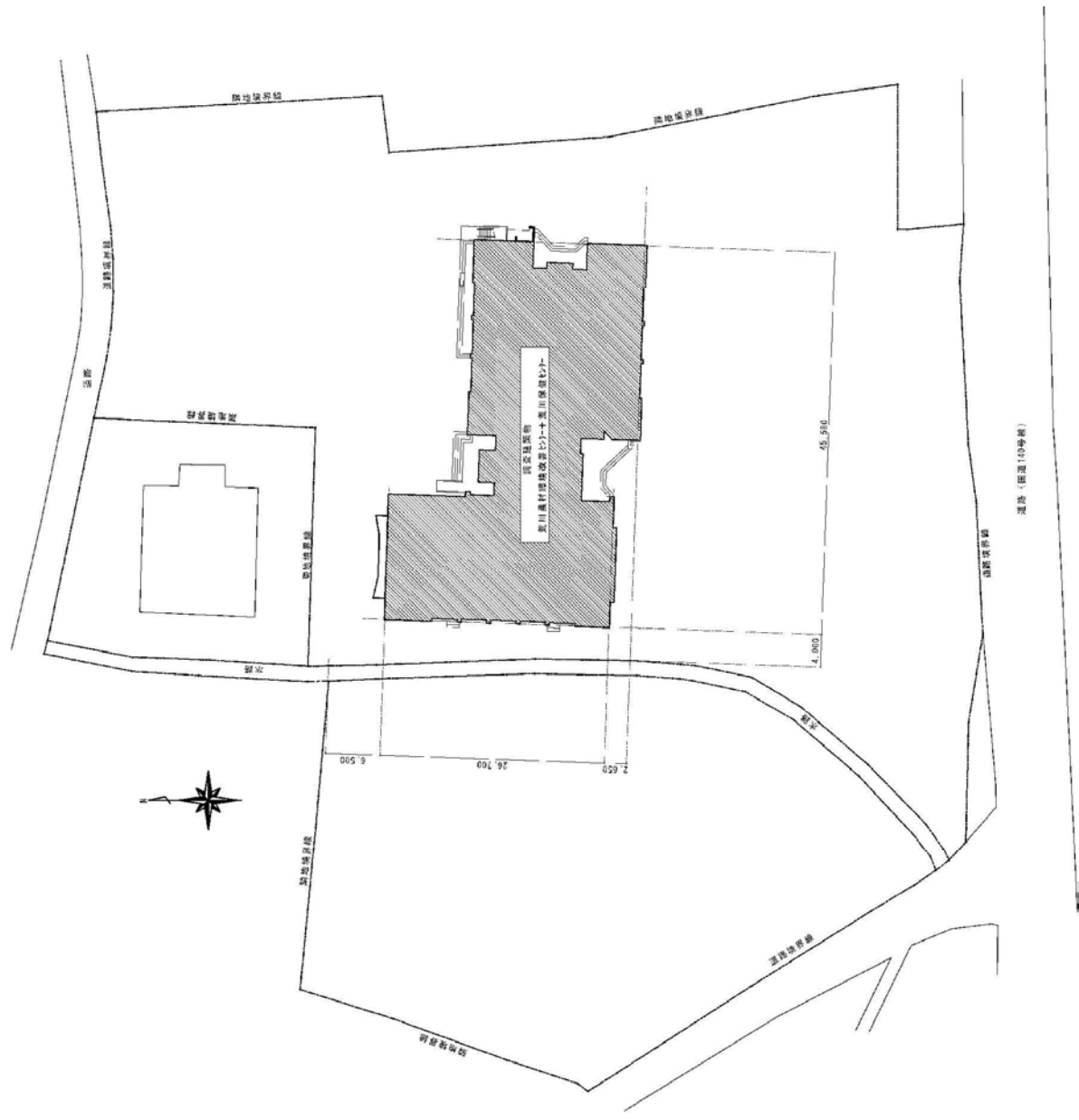
(9) 荒川農村環境改善センター

荒川農村環境改善センター 施設概況		
-------------------	--	--

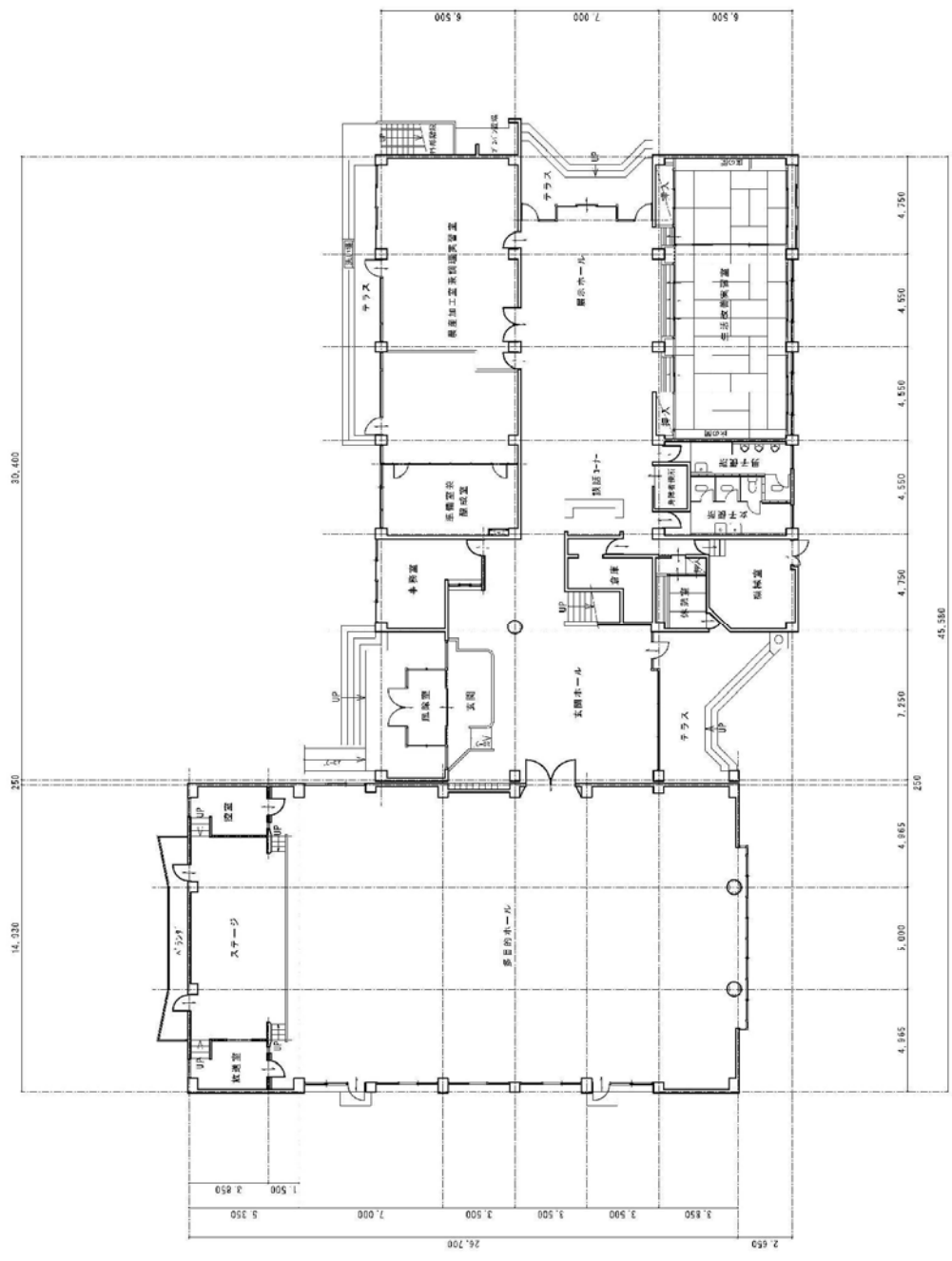
名	称	荒川農村環境改善センター
所	管	課
		荒川総合支所 地域振興課
所	在	地
		秩父市荒川日野 70-1

施設概要	建築物別名称		荒川農村環境改善センター
	公有財産番号		—
	建築物名称		荒川農村環境改善センター
	計画通知	受理書の有無	有
		検査済証の有無	無
	着工		1990年10月
	竣工		1991年3月
	築年数		22年
	都市計画区域（区域内・外）		区域外
	用途地域		指定なし
	敷地面積		9,164 m ²
	建蔽率・容積率	建蔽率	12.19%
		容積率	14.35%
	防火地域		指定なし
	接道条件		—
	用途（主要用途）		集会場
	収容人員		—
	建築面積		1,117 m ²
	延床面積		1,315 m ²
	階数		2階
	最高部高		11m
	構造種別		鉄筋コンクリート造
	所有区分		—
資産形態		—	
管理会社		—	
設計者		—	
施工者		㈱萩原正三建築計画研究室	

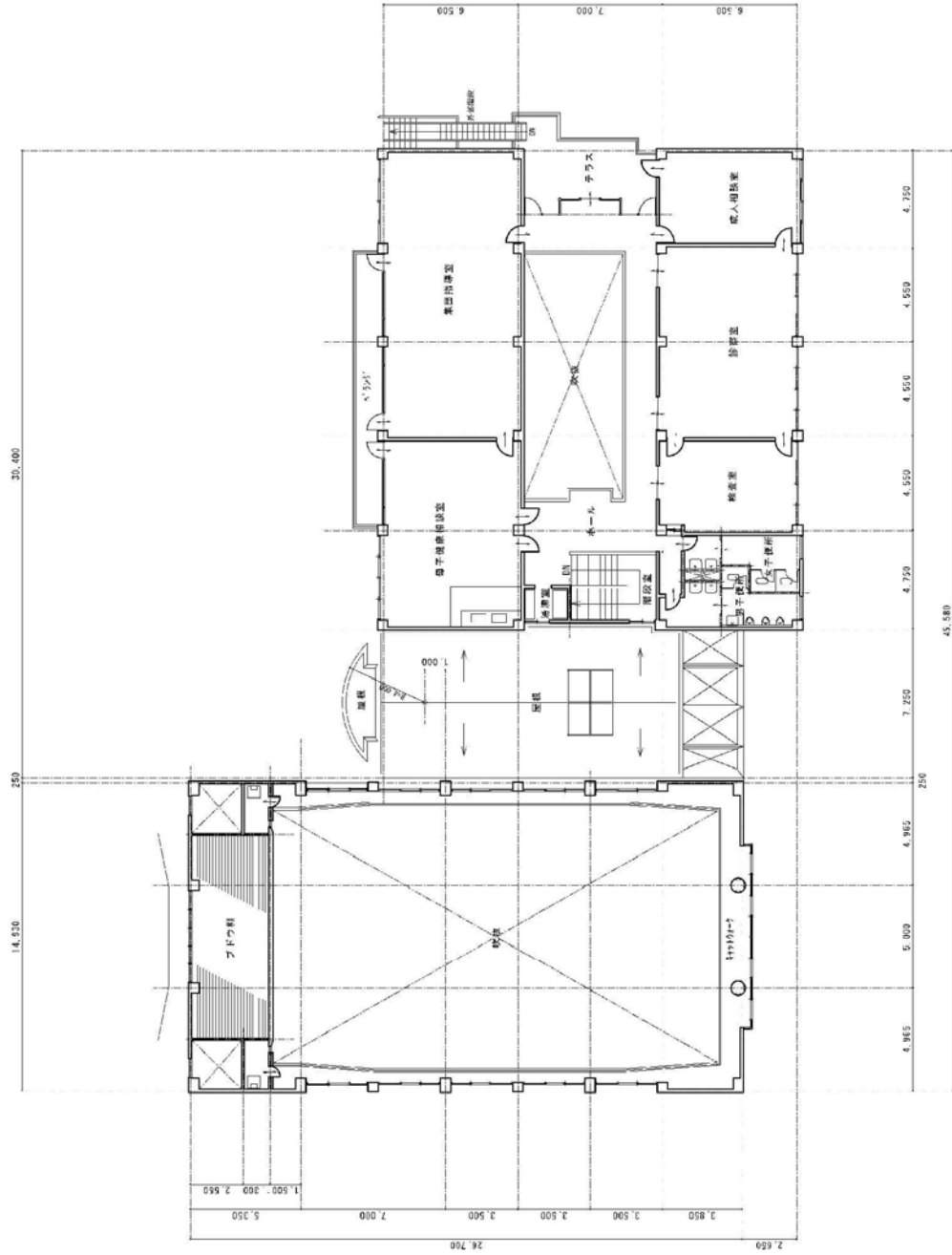
荒川農村環境改善センターの配置図



荒川農村環境改善センター 平面図（1階）



荒川農村環境改善センター 平面図（2階）



荒川農村環境改善センター 現況写真

(調査日：平成 25 年 1 月 8 日)



建物全景(1)：多目的ホール部



テラス上部の梁型：汚れが目立つ



建物全景(2)：管理部門とテラス



屋上：排水ドレーン周囲



外部階段：北側にあり、凍害等影響を受けやすく、劣化が進行している



屋上：平場の防水とトップライト

荒川農村環境改善センター 棟別診断の結果

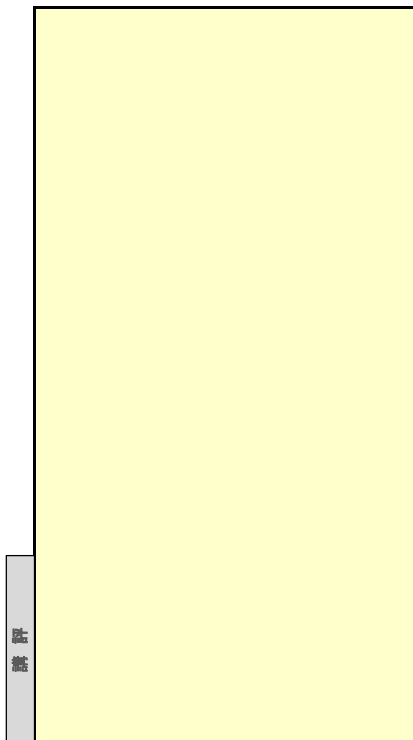
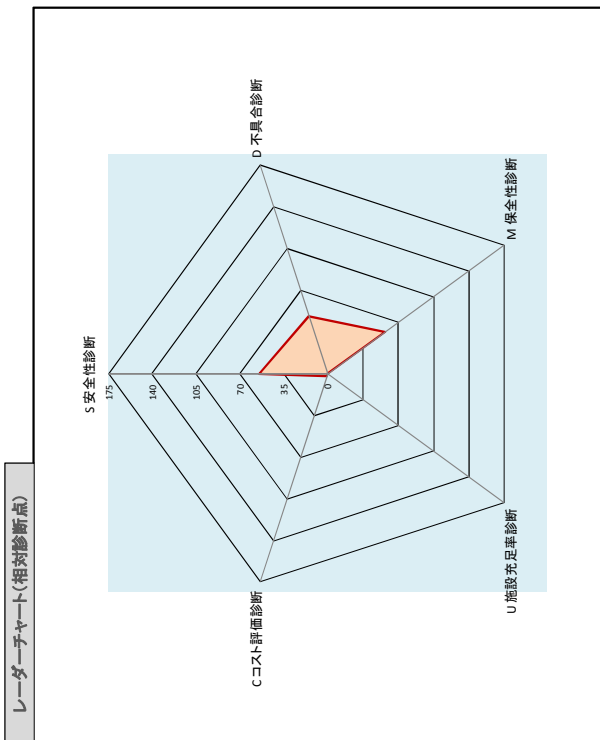
大項目	診断項目		簡易診断項目	危険度H					劣化度F					対応度R					コスト診断記号B				
	中項目	小項目		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
S 安全性診断	S 1 建物 安全性	S1.1 耐震安全性	1 耐震診断・耐震改修					◎															
		S1.2 対落雷安全性	1 避雷針					◎															
	S 2 火災 安全性	S2.1 耐火安全性	1 延焼防止					◎															
		S2.2 避難安全性	1 避難路確保					◎															
		S2.3 消火安全性	1 消火活動・経路確保					◎															
	S 3 生活環境 安全性	S3.1 空気質安全性	1 空気質安全性の確保			●																	
		S3.2 水質安全性	1 水質安全性の確保			●																	
		S3.3 傷害・損傷 防止性	1 付帯施設事故防止性			●																	
		S3.4 有害物質排 除性	1 アスベスト排除	★																			□
			2 PCB排除					◎															
S3.5 バリアフリー	1 バリアフリー対応性					◎																	
D 不具合性診断	D 1 耐久性	D1.1 耐久性	1 経過年数										◎										
			2 耐用年数（償却）										◎										
			3 設備の耐用年数								●												
	D 2 建築・ 工作物の 不具合 現況	D2.1 構造の不具 合現況	1 基礎の不具合現況										◎										
			2 躯体の不具合現況 （R C造）								●												
			3 土台、柱、梁などの不 具合現況（W, S 造）										◎										
		D2.2 外部仕上の 不具合現況	1 陸屋根の不具合現況								●												
			2 外壁の不具合現況								●												
			3 開口部の不具合現況										◎										
		D2.3 内部仕上の 不具合現況	1 天井の不具合現況										◎										
			2 内壁の不具合現況										◎										
		D2.4 付帯設備の 不具合現況	1 外階段・煙突等の不 具合現況										◎										
			2 広告塔、吊り看板の 不具合現況										◎										
		D2.5 設備の不具 合現況	1 電気設備の不具合現 況								●												
			2 機械設備の不具合現 況										◎										
3 防災設備の不具合現 況											◎												
M 保全性診断	M 1 法的 適合性	M1.1 建物に關する 法令にお ける適法 確認	1 建築基準法における 適法確認															◎					
			2 その他の法規にお ける適法 確認															◎					
		M1.2 滲れに關する法 令にお ける適法 確認	1 消防法における適法 確認															◎					
		M1.3 条例にお ける適法 確認	1 県条例における適法 確認															◎					
	M1.4 定期検査の 確認	1 法定検査の実施															◎						
	M 2 情報管理	M2.1 設計図書 の管理	1 竣工図書の管理													▲							□
			2 履歴図書の管理														○						□
		M2.2 許認可図書 の管理	1 建築確認申請書（副 本）の管理													★							□
棟別診断集計				1	0	3	0	7	0	0	5	0	11	1	1	0	1	5	0	0	0	0	4

(注) 公共施設に使用において、★重度の問題箇所、▲中度の問題箇所、●要注意箇所、○問題なし、◎良好
コスト診断における□は改善費用の大きさを表す。(改善費用 大 1⇔5 小)

荒川農村環境改善センター 総合診断表 (出カイメージ)

T2 総合診断表

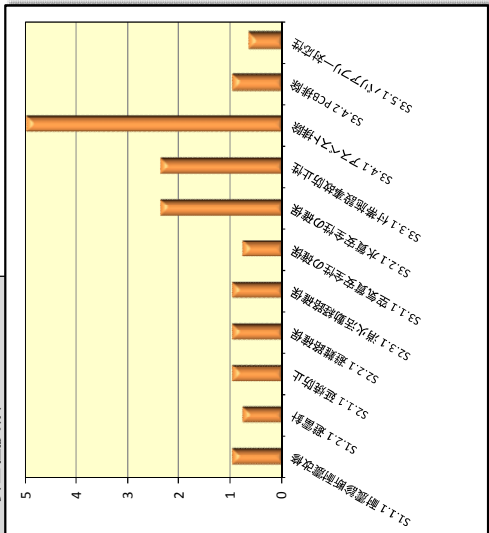
大項目	診断項目		情報診断項目	性能診断		重要課題	改善費・運用費 (千円)	
	中項目	小項目		カテゴリー	診断点			重付
S 安全性診断	S1 建物安全性	S1.1 耐震安全性	1 耐震診断・耐震改修	H5	1	1	0	
		S1.2 対落雷安全性	1 避雷針	H5	1	0.8	0	
		S1.3 耐火安全性	1 屋根防火	H5	1	1	0	
		S1.4 避難安全性	1 避難経路確保	H5	1	1	0	
		S1.5 消火安全性	1 消火活動・経路確保	H5	1	1	0	
		S1.6 空気質安全性	1 空気質安全性の確保	H5	1	0.8	0	
		S1.7 水質安全性	1 水質安全性の確保	H3	3	0.8	2.4	
		S1.8 生活環境安全性	1 付帯施設事故防止	H3	3	0.8	2.4	
		S1.9 有害物質排除性	1 アスベスト排除 2 PCB排除	H1	5	1	5	84
		S1.10	1 ハリアアリアー対応性	H5	1	0.7	0.7	0
S 診断点小計				19	17.1	94		
S 相対診断点(小計×35/11)					54.4			
D 不具合性診断	D1 耐用性	D1.1 耐久性	1 経過年数 2 耐用年数(償却) 3 設備の耐用年数	F5	1	1	0	
		D2 構造の不具合状況	1 基礎の不具合状況 2 躯体の不具合状況 (RC造) 3 土台柱梁などの不具合状況(WS造)	F3	3	1	3	0
		D3 建物・設備の不具合状況	1 屋根の不具合状況 2 外壁の不具合状況 3 開口部の不具合状況	F3	3	0.8	2.4	0
		D4 付帯設備の不具合状況	1 天井の不具合状況 2 内装の不具合状況 3 外階段・煙突等の不具合状況 4 電気設備の不具合状況 5 ガス塔・吊り階段の不具合状況	F5	1	0.8	0.8	0
		D5 設備の不具合状況	1 外階段・煙突等の不具合状況 2 電気設備の不具合状況 3 機械設備の不具合状況 4 防犯設備の不具合状況	F5	1	0.7	0.7	0
		D6	1 外階段・煙突等の不具合状況 2 電気設備の不具合状況 3 機械設備の不具合状況 4 防犯設備の不具合状況	F5	1	0.6	0.6	0
		D7	1 外階段・煙突等の不具合状況 2 電気設備の不具合状況 3 機械設備の不具合状況 4 防犯設備の不具合状況	F5	1	0.8	0.8	0
		D8	1 外階段・煙突等の不具合状況 2 電気設備の不具合状況 3 機械設備の不具合状況 4 防犯設備の不具合状況	F5	1	0.8	0.8	0
		D9	1 外階段・煙突等の不具合状況 2 電気設備の不具合状況 3 機械設備の不具合状況 4 防犯設備の不具合状況	F5	1	0.8	0.8	0
		D10	1 外階段・煙突等の不具合状況 2 電気設備の不具合状況 3 機械設備の不具合状況 4 防犯設備の不具合状況	F5	1	0.8	0.8	0
D 診断点小計				26	22.1	0		
D 相対診断点(小計×35/16)					48.3			
M 保全性診断	M1 法的適合性	M1.1 建物に関する法令における適法確認	1 建築基準法における適法確認 2 その他の法規における適法確認	R5	1	1	0	
		M1.2 消防に関する法令における適法確認	1 消防法における適法確認	R5	1	0.9	0.9	0
		M1.3 条例における適法確認	1 条例における適法確認	R5	1	0.8	0.8	0
		M1.4 定規の管理	1 法定検査の実施 2 竣工図書の管理 3 履歴図書の管理	R2	4	0.8	3.2	1,038
		M2 借換管理	1 建築確認申請書(副本)の管理	R4	2	0.7	1.4	186
		M3 許認可管理	1 建築確認申請書(副本)の管理	R1	5	0.8	4	184
		M4	1 建築確認申請書(副本)の管理	R1	5	0.8	4	184
		M5	1 建築確認申請書(副本)の管理	R1	5	0.8	4	184
		M6	1 建築確認申請書(副本)の管理	R1	5	0.8	4	184
		M7	1 建築確認申請書(副本)の管理	R1	5	0.8	4	184
M 診断点小計				16	13.0	1,409		
M 相対診断点(小計×35/8)					56.9			
C 改善費								
C1 安全性改善費					0.07	94		
C2 耐用性改善費					0.00	0		
C3 保全性改善費					1.07	1,409		
C4 管理費					0.00	0		
C5 検査費					0.00	0		
C 診断点小計					1.14	1,503		
C 相対診断点(小計×175/100千円)					2.00			
C 相対診断点集計(相対診断点の和)					161.63			



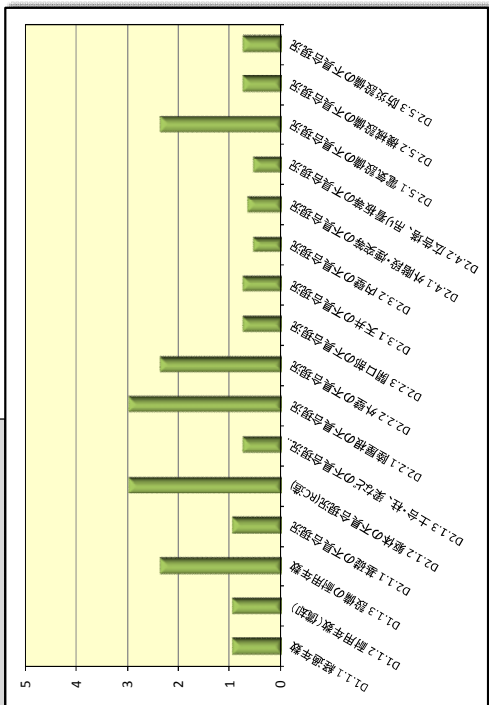
荒川農村環境改善センター 各診断グラフシート (出カイメージ)

T3 各診断グラフシート

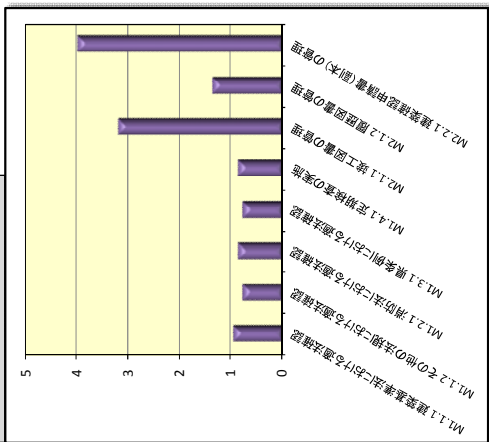
S 安全性診断(重付診断点)



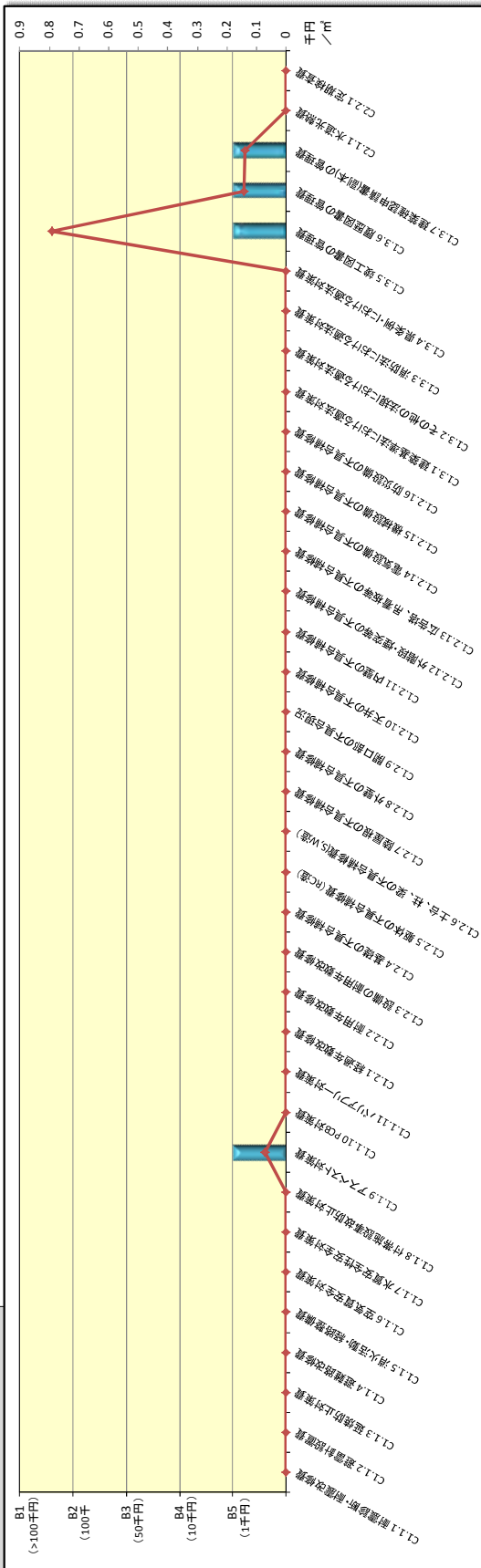
D 不具合性診断(重付診断点)



M 保全性診断(重付診断点)



C コスト診断(診断記号-改善)



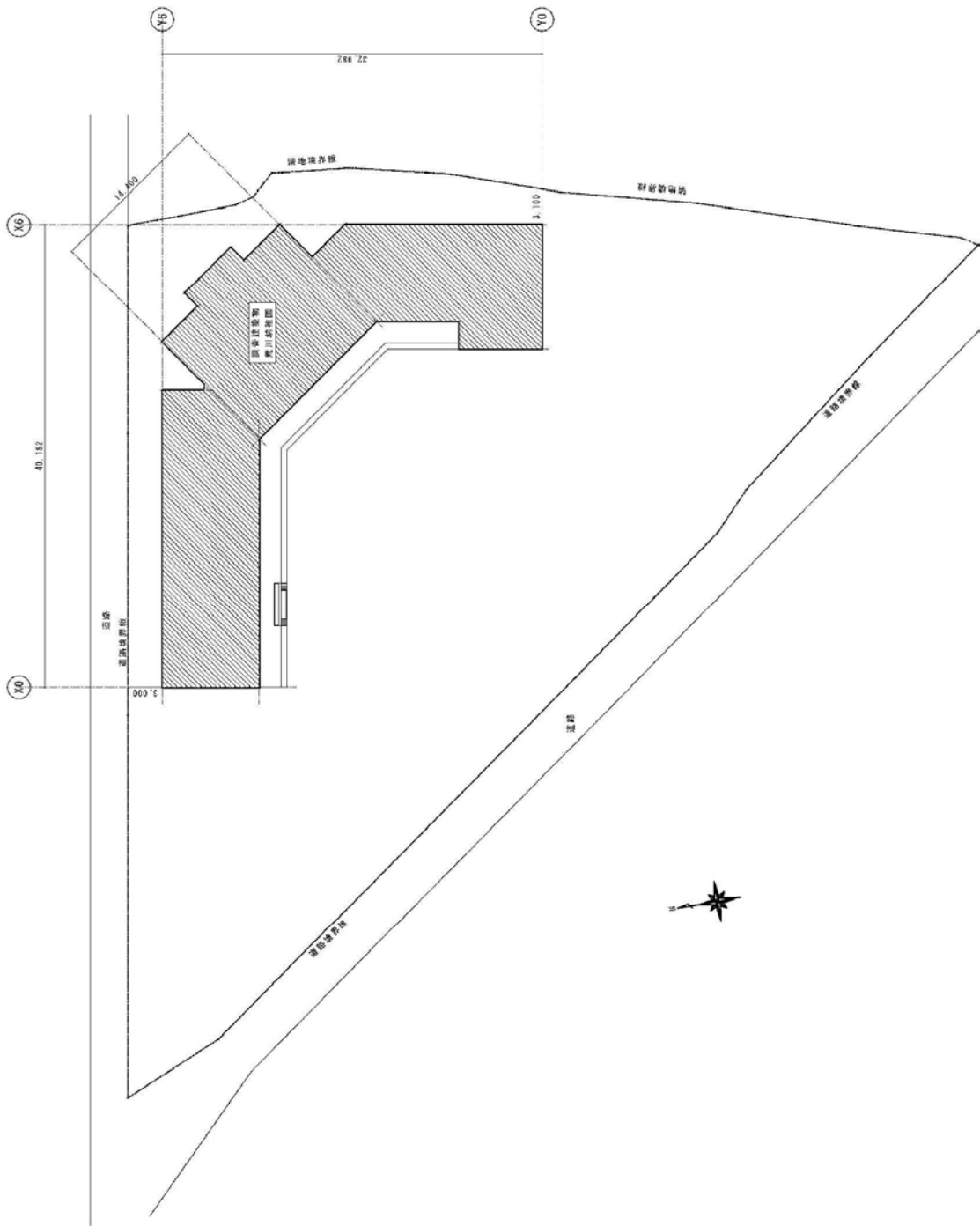
(10) 荒川幼稚園

荒川幼稚園 施設概況

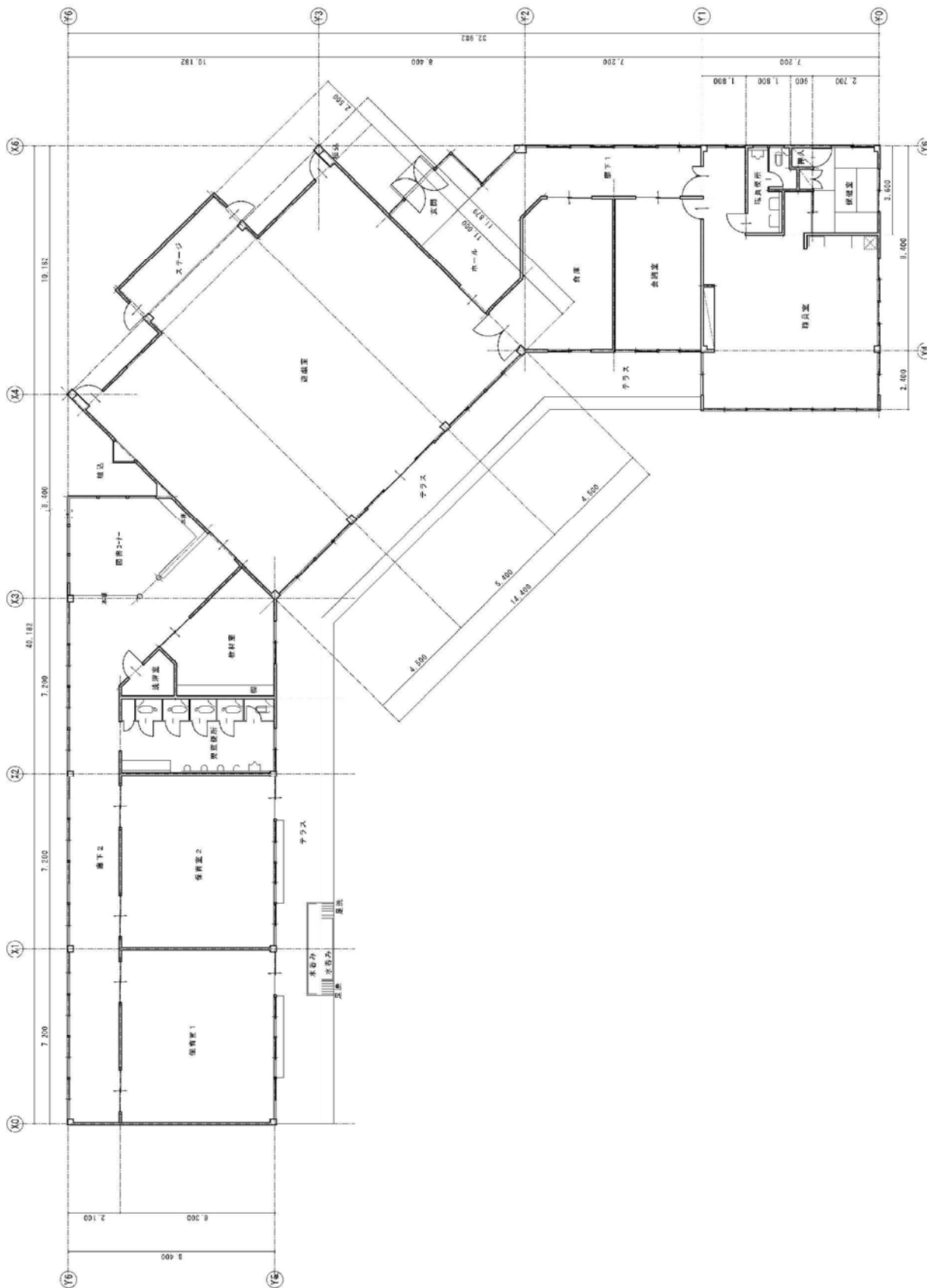
名	称	荒川幼稚園
所	管	課
所	在	地
		学校教育課
		秩父市荒川日野 87-1

施設概要	建築物別名称		荒川幼稚園
	公有財産番号		—
	建築物名称		荒川幼稚園
	計画通知	受理書の有無	—
		検査済証の有無	—
	着工		1993年5月
	竣工		1993年12月
	築年数		20年
	都市計画区域（区域内・外）		区域外
	用途地域		指定なし
	敷地面積		3,176
	建蔽率・容積率	建蔽率	19.96%
		容積率	17.13%
	防火地域		指定なし
	接道条件		—
	用途（主要用途）		幼稚園
	収容人員		—
	建築面積		634 m ²
	延床面積		544 m ²
	階数		1階
	最高部高		7.4m
	構造種別		重量鉄骨造
	所有区分		—
資産形態		—	
管理会社		—	
設計者		(株)丸岡設計	
施工者		—	

荒川幼稚園 配置図

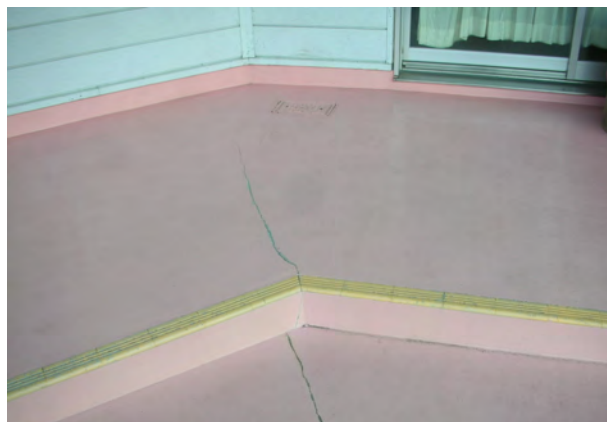


荒川幼稚園 平面図





建物全景



テラス：面のひび割れ



遊戯室



職員室：天井と壁の見切が一部脱落



テラス：雨樋とテラスの接続部がはずれている



基礎：基礎立上りのひび割れ測定

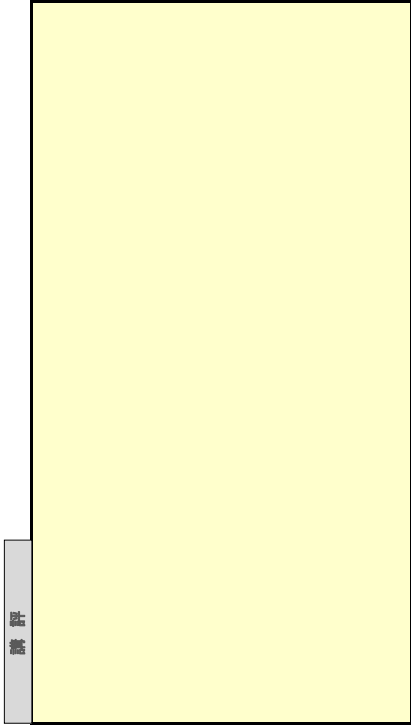
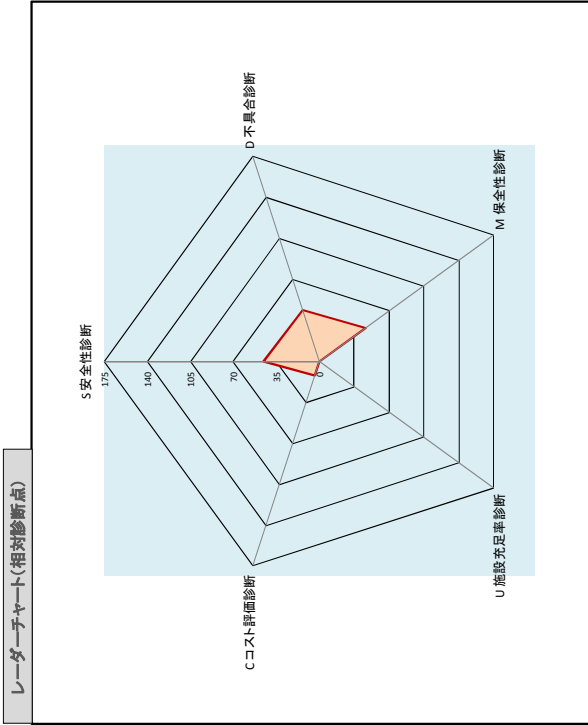
荒川幼稚園 棟別診断の結果

診断項目			簡易診断項目	危険度H					劣化度F					対応度R					コスト診断記号B				
大項目	中項目	小項目		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
S 安全性診断	S 1 建物 安全性	S1.1 耐震安全性	1 耐震診断・耐震改修					◎															
		S1.2 対落雷安全性	1 避雷針					◎															
	S 2 火災 安全性	S2.1 耐火安全性	1 延焼防止					◎															
		S2.2 避難安全性	1 避難路確保					◎															
		S2.3 消火安全性	1 消火活動・経路確保					◎															
	S 3 生活環境 安全性	S3.1 空気質安全性	1 空気質安全性の確保			●																	
		S3.2 水質安全性	1 水質安全性の確保					◎															
		S3.3 傷害・損傷防止性	1 付帯施設事故防止性			●																	
		S3.4 有害物質排除性	1 アスベスト排除					◎															
			2 PCB排除					◎															
S3.5 バリアフリー	1 バリアフリー対応性	★																			□		
D 不具合性診断	D 1 耐久性	D1.1 耐久性	1 経過年数					◎															
			2 耐用年数(償却)					◎															
			3 設備の耐用年数					●															
	D2.1 構造の不具合現況	2 躯体の不具合現況(RC造)	1 基礎の不具合現況					◎															
			2 土台、柱、梁などの不具合現況(W,S造)					◎															
			3 陸屋根の不具合現況					●															
	D2.2 外部仕上の不具合現況	2 外壁の不具合現況	1 陸屋根の不具合現況					●															
			2 外壁の不具合現況					●															
			3 開口部の不具合現況					◎															
	D2.3 内部仕上の不具合現況	2 内壁の不具合現況	1 天井の不具合現況					◎															
			2 内壁の不具合現況					◎															
	D2.4 付帯設備の不具合現況	2 広告塔、吊り看板の不具合現況	1 外階段・煙突等の不具合現況					◎															
			2 広告塔、吊り看板の不具合現況					◎															
	D2.5 設備の不具合現況	2 機械設備の不具合現況	1 電気設備の不具合現況					●															
			2 機械設備の不具合現況					◎															
3 防災設備の不具合現況							◎																
M 保全性診断	M 1 法的 適合性	M1.1 建物に関する法令における適法確認	1 建築基準法における適法確認					◎															
			2 その他の法規における適法確認					◎															
		M1.2 藩邸に関する法令における適法確認	1 消防法における適法確認					◎															
		M1.3 条例における適法確認	1 県条例における適法確認					◎															
	M1.4 定期検査の確認	1 法定検査の実施					◎																
	M 2 情報管理	M2.1 設計図書の管理	1 竣工図書の管理					◎															
			2 履歴図書の管理					○															
		M2.2 許認可図書の管理	1 建築確認申請書(副本)の管理					★															□
棟別診断集計				1	0	2	0	8	0	0	4	0	12	1	0	0	1	6	0	0	0	1	1

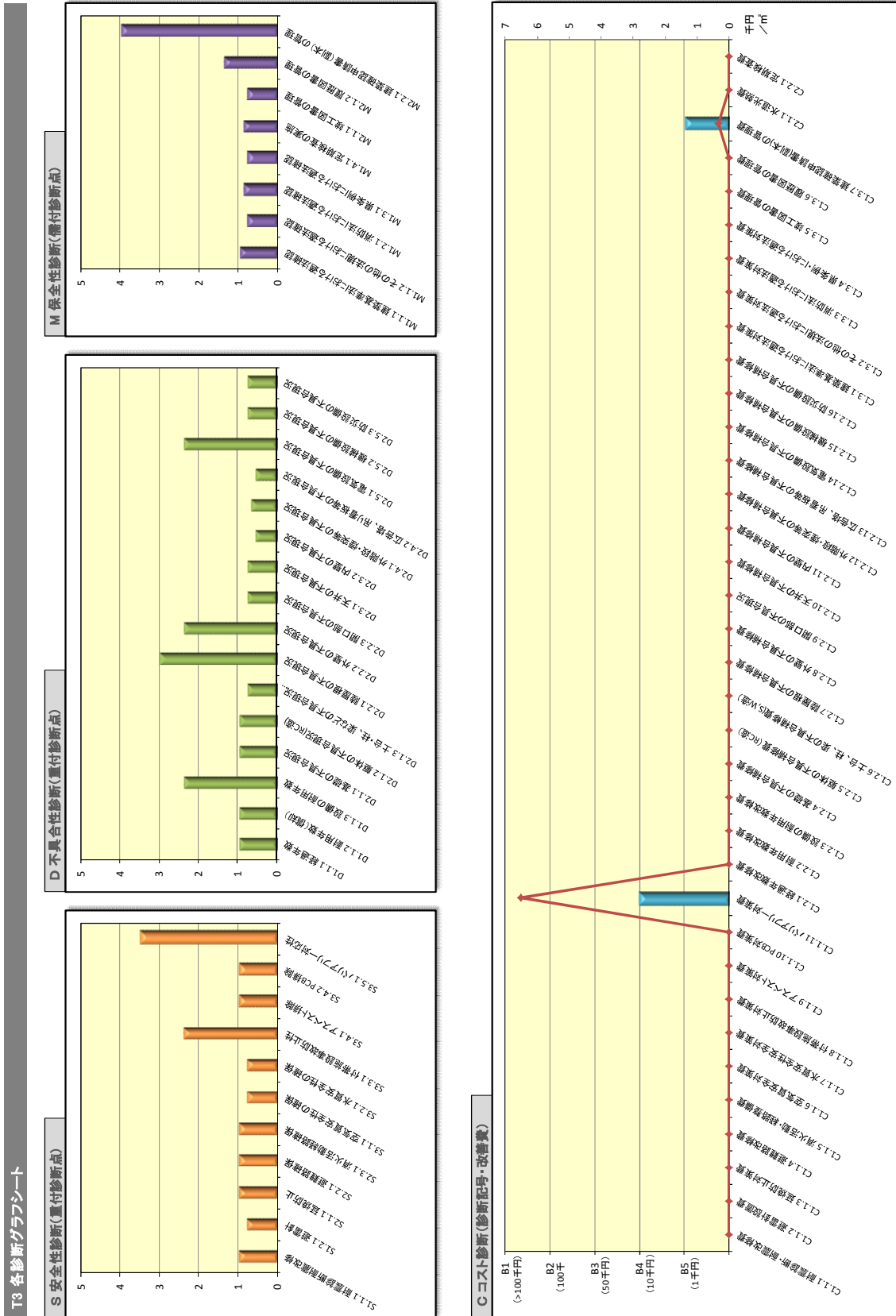
(注) 公共施設に使用において、★重度の問題箇所、▲中度の問題箇所、●要注意箇所、○問題なし、◎良好
コスト診断における□は改善費用の大きさを表す。(改善費用 大 1⇔5 小)

T2 総合診断表

大項目	診断項目		簡易診断項目	性能診断			重要課題	改善費・運用費(千円)		
	中項目	小項目		グレート	診断点	重付			重付	
S 安全性診断	S1 建物安全性	S1.1 耐震安全性	1 耐震診断・耐震改修	H5	1	1	1	0		
		S1.2 対策用安全性	1 避難経路	H5	1	0.8	0.8	0		
		S2 防火安全性	1 延焼防止	H5	1	1	1	0		
		S2.1 耐火安全性	1 避難経路確保	H5	1	1	1	0		
		S2.2 避難安全性	1 消火活動・経路確保	H5	1	1	1	0		
	S2 火災安全性	S3.1 空気質安全性	1 空気質安全性の確保	H5	1	0.8	0.8	0		
		S3.2 水質安全性	1 水質安全性の確保	H5	1	0.8	0.8	0		
		S3.3 衛生・健康防止性	1 付帯施設事故防止性	H3	3	0.8	2.4	0		
		S3.4 有害物質排除性	1 アスベスト排除 2 PCB排除	H5	1	1	1	0		
		S3.5 AV/Aフリー	1 AV/Aフリー対応性	H1	5	0.7	3.5	3,540		
S 診断点小計				17	14.3		3,540			
S 相対診断点(小計×35/11)					45.5					
D 不具合性診断	D1 耐用性	耐久性	1 経過年数	F5	1	1	1	0		
			2 耐用年数(概知)	F5	1	1	1	0		
			3 設備の耐用年数	F3	3	0.8	2.4	0		
	D2 構造の不具合状況	構造の不具合状況	1 基礎の不具合状況	F5	1	1	1	0		
			2 躯体の不具合状況(RC造)	F5	1	1	1	0		
			3 土台・柱・梁などの不具合状況(M/S造)	F5	1	0.8	0.8	0		
	D2.2 建物・工作物の不具合状況	建物・工作物の不具合状況	1 陸屋根の不具合状況	F3	3	1	3	0		
			2 外壁の不具合状況	F3	3	0.8	2.4	0		
			3 開口部の不具合状況	F5	1	0.8	0.8	0		
			4 天井の不具合状況	F5	1	0.8	0.8	0		
D2.3 内部仕上の不具合状況	内部仕上の不具合状況	1 天井の不具合状況	F5	1	0.8	0.8	0			
		2 内壁の不具合状況	F5	1	0.6	0.6	0			
		3 外階段・階段等の不具合状況	F5	1	0.7	0.7	0			
D2.4 非常設備の不具合状況	非常設備の不具合状況	1 広さ・高さ・耐震等の不具合状況	F5	1	0.6	0.6	0			
		2 電気設備の不具合状況	F3	3	0.8	2.4	0			
		3 機械設備の不具合状況	F5	1	0.8	0.8	0			
D2.5 設備の不具合状況	設備の不具合状況	1 電気設備の不具合状況	F5	1	0.8	0.8	0			
		2 機械設備の不具合状況	F5	1	0.8	0.8	0			
		3 防災設備の不具合状況	F5	1	0.8	0.8	0			
D 診断点小計				24	20.1					
D 相対診断点(小計×35/6)					44.0					
M 安全性診断	M1 法的適合性	M1.1 建物に関する法令における適法確認	1 建築基準法における適法確認	R5	1	1	1	0		
			2 その他の法規における適法確認	R5	1	0.8	0.8	0		
			1 消防法における適法確認	R5	1	0.9	0.9	0		
			1 単条例における適法確認	R5	1	0.8	0.8	0		
			1 法定検査の実施	R5	1	0.9	0.9	0		
			1 竣工図書管理	R5	1	0.8	0.8	0		
			2 履歴図書管理	R4	2	0.7	1.4	0		
			1 建築確認申請書(副本)の管理	R1	5	0.8	4	184		
			M 診断点小計				13	10.6		184
			M 相対診断点(小計×35/6)					46.4		
大項目				中項目			千円/㎡			
C コスト診断	C1 安全性改善費					6.51	3,540			
	C1.1 安全性改善費					0.00	0			
	C1.2 耐用性改善費					0.34	194			
	C1.3 健全性改善費					0.00	0			
C2 運用費					0.00	0				
C2.1 管理費					0.00	0				
C2.2 検査費					6.85	3,724				
C 診断点小計						6.85				
C 相対診断点(小計×175/100千円)						11.98				
検測診断SDM総計(相対診断点の和)						147.82				



荒川幼稚園 各診断グラフシート (出カイメージ)



3 診断調査の総括

(1) 診断結果の概要

図表5-3は、簡易性能診断の実施による10棟の建物の診断結果の一覧表である。

危険度(H)、劣化度(F)、対応度(R)では、各グレードにおける獲得数が集計されている。

H1、H2、F1、F2、R1、R2は、建物を使い続けるうえで何らかの問題がある箇所数を示している(図表中の濃い灰色部分)。

H3、F3、R3は要注意箇所があることを示している(図表中の薄い灰色部分)。

H4、H5、F4、F5、R4、R5は建物を使い続けるうえで何ら問題のないことを示している。

大項目別相対診断点は、各項目に重付をつけて各項目の診断点を集計したものである。危険度では、相対診断点の最大値が157.5、最小値が31.5となる。劣化度では、相対診断点の最大値が115.7、最小値が27.3となる。対応度では、相対診断点の最大値が122.5、最小値が29.3となる。コスト診断では、相対診断点の最大値が175.0、最小値0となる。

棟別相対診断点は、大項目の診断点を集計したものである。棟別相対診断点では、相対診断点の最大値が570.7、最小値が88.1となる。コストは、棟別の建物の改善費用と1年間に必要とする運用費用を集計したものである。ただし、運用費用が加算されておらず、改善費用のみとなっている。

図表5-3 簡易診断結果からみたモデル施設の状況

施設名称	危険度(H)					劣化度(F)					対応度(R)					棟別相対診断点	大項目別相対診断点				コスト(千円)
	H1	H2	H3	H4	H5	F1	F2	F3	F4	F5	R1	R2	R3	R4	R5		危険度	劣化度	対応度	コスト	
秩父図書館	1	0	3	0	7	2	0	3	0	11	0	2	1	0	5	172.7	60.1	56.2	56.0	0.3	723
秩父公園観光公衆トイレ	0	2	2	0	7	0	0	2	0	14	0	2	1	0	5	164.7	60.1	36.1	56.0	12.5	491
永田保育所	2	1	3	0	5	2	0	2	0	12	0	1	0	0	7	205.6	72.9	51.8	38.5	42.7	21,882
中村児童館・高齢者憩いの家	1	0	3	0	7	1	0	2	0	13	0	2	1	0	5	153.4	51.9	44.0	56.0	1.6	518
文化体育センター	1	0	3	0	7	0	0	2	0	14	0	2	1	0	5	142.4	50.6	35.7	56.0	0.13	518
保健センター	3	0	2	0	6	5	0	5	0	6	0	2	1	0	5	231.1	65.2	84.2	56.0	25.7	14,215
吉田龍勢会館	0	0	1	0	10	0	0	3	0	13	0	2	1	0	5	135.5	36.6	41.3	56.0	1.53	491
大滝振興会館	1	0	1	0	9	1	0	2	0	13	1	2	0	0	5	152.9	45.5	44.0	63.0	0.5	554
荒川農村環境改善センター	1	0	3	0	7	0	0	5	0	11	1	1	0	1	5	161.6	54.4	48.3	56.9	2.0	1,503
荒川幼稚園	1	0	2	0	8	0	0	4	0	12	1	0	0	1	6	147.8	50.6	44.0	46.4	12.0	3,724

(注)相対診断点は小数点以下2位を四捨五入

(2) 調査における留意点

今回の実証実験に通じて把握した実査面での留意点を整理すると以下のとおりとなる。

ア 調査までの手順（準備）等の確保

施設調査を実施するまえの、資料収集、下見等の事前準備は不可欠であり、準備段階を通じて、情報の管理・収集状況が把握するとともに、調査全体のフロー、調査の重点等が把握できる。

事前調査を通じて、例えば、施設の構造等から、屋上調査の有無が把握できるとともに、屋上に上がるための方法や、施設管理者からの鍵の借用等について事前に確認しておくことが可能となる。

イ 調査時期による天候の考慮

調査を円滑かつ効率的に実施するうえで、また、客観的な施設実態の把握するうえで、調査実施の時期の気象条件（温度、日照時間等）や当日の天候（大気、風雨等）等の状況を考慮することが重要となってくる。秩父市は、四季の寒暖化が大きく、特に1～3月の調査の場合、降雪による影響等を考慮する必要がある。

ウ 施設管理者に対するヒアリング

調査を実施する上で、施設管理、施設不具合の状況について施設管理者に対してヒアリングを行うことが重要である。また、現況把握を行う調査過程において、必要に応じて、適宜、施設管理者から説明等を受けることが、重要な施設の不具合箇所等を見落とすことなく、より適切な調査を遂行することに効果があると考えられる。施設形態、管理状況等によって、管理者が施設内に常駐していない場合も少なくないため、施設管理者の状況についても事前に確認する必要がある。

エ 調査時間の確保

秩父市は広域な市域を有しており、地域施設によってはアクセス等に時間を要する場合がある。また、市民利用施設は施設用途により、調査時間が限定される場合があるので留意を要する。

オ 調査・診断誤差・作業ロスを最小化するための調査体制の確保

複数人数で調査することは有効であり、年齢が異なる者で調査することも、調査の視点や調査結果のチェック等において相互補完が働き有効と思われる。また、スポーツ施設、トイレ、浴室等の男女の利用が区分されたり、利用者の性・年齢が制限されている施設も少ないことから、こうした施設の特性にも配慮した調査体制の確保も必要である（女性スタッフを同行させる等）。

今回の実証実験では様々な施設（用途、場所、構造、階数、規模等が異なる）10施設を対象として行ったが、診断の偏り等を考慮すると、ある程度グルーピングされた類似の施設に対して、一定時期に集中して行った方が、診断に偏りが出にくいと考えられる。

